



上山小学校「風のたより」

令和5年11月2日(木) 校長 有谷孝彦



学校経営目標：ふるさとを愛し、

自らの未来を切り拓く児童を育成する



子供はよく見てるんです！

写真は、親父の会の皆さんによる「ひょうたん池」の掃除です。前日までの陽気とは裏腹に気温が下がり、寒い中での作業でしたが、お父さん方の献身的な取り組みに頭が下がりました。子供たちは親の姿をしっかりと見て育ちます。とてもいい取組だと思います。



子供たちは、私たちに見たままの様子を忌憚なく話します。「ねえ先生！聞いて聞いて！」「この前お父さんがお母さんにすごく怒られよったよ(>_<)」とか「校長先生！この前、車の中で大きな口開けて大声で歌いながら帰ってたでしょ～」とか・・・子供たちは嗅覚というか第六感が優れており、見える前に直感的に感じる能力があるようです。そして、微妙な空気も感じ取るようです。鋭いです！そんな子供たちに相對するには、大人が心を開き正面から正直に向き合わなければならなりません。嘘は通用しません。職員は真っ向勝負します。(*^^*)



形あるものは必ず移ろひつゝ

いつかは枯れてしまふ

四つ葉のクローバー

でも君のくれた形のない気持ちには、

心の中ずっと枯れることはない

その時、僕は気づけたような気がした

見えないものを信じることの

その意味を

この目で見ることが

できないからといって、

そこにはもう無いと決めつけたりしない

夢とか希望とか絆とか愛を

この世界が失ってしまわないように

「四つ葉のクローバー」～抜粋～

榎原敬之



「上山まつり」復活！

4年ぶりの復活となった「上山まつり」は、大盛況でした。たくさんのステージでの出し物や子供たちが飛びつくような出店など盛りだくさんでした。育友会行事ですから、保護者の皆様が中心となって開催されたのですが、子どもの心をつかむも企画であったととても感激しました。これまでも「上山まつり」は、脈々と受け継がれてきたので



きたのでしょうが、その回ごとに子供の笑顔がはじけ思い出となっていくのだなと思いました。ふと、私が子供の頃に楽しみにしていた「春の市」を思い出しました。毎年3月ぐらいに諫早神社前の四面橋の側道と河川敷から下流に向かって300メートルほどに出店や植木市が行われていて、地味だけど風情のある市が開かれていました。コロナ禍で変わりゆく世の中に寂しさを感じていたのですが、少しだけ心があたたかくなりました。育友会の皆様、ありがとうございました。

6年生の小体連ニヤリとウルウル！

10月31日に秋晴れのもと、トランス・コスモスタジアムにて、第19回諫早市小学校体育連盟体育大会が開催されました。市内28校の全6年生13200人が参加して盛大に行われました。



本校創立60周年事業で皆様から子供たちにいただいたユニホームは、どこの学校よりも格好よくて思わずニヤリ。競技においては、歯を食いしばって頑張る子供たちに感動を覚えながら、またニヤリ。

力を発揮できずに悔しくてたまらなかった児童もいました。それでもぐっところえていました。これにはウルウル。応援席での児童の振る舞いや応援態度がとてもよくて、またまたニヤリ。そして、大会競技補助員として黙々と走り幅跳びの砂場を均す児童を見てウルウル。他校の先生方にほめられました。本校の児童は、「当たり前の基準」が高いのかなと思いました。私たちは、また上山小学校が、上山小学校の児童が大好きになりました。(*^*)

☆上山小のHP「スミレだより」毎日更新しています。QRコードもご利用ください。